

ドローン物流の実現に向けて

12/12

災害時、買い物支援に向け町と3社が包括連携協定の締結式を行いました



左から、田路社長、菌田町長、河合執行役員、博野社長

災害時の物資輸送や、買い物が困難な地域への食品輸送などにドローンを活用するための包括連携協定締結式が町役場本庁にて行われました。

この日、菌田町長と、(株)エアロネクストの田路圭輔社長、セイノーホールディングス(株)の河合秀治執行役員、KDDIスマートドローン(株)の博野雅文社長が出席し、協定書に署名しました。

ドローンによる物流は、運転手の残業規制による輸送能力の低下が懸念される「2024年問題」の解決策として期待されています。また、オンライン診療と組み合わせでドローンで薬を配送するなど、医療体制の構築についても目指していきます。

エコティ日記

町の自然資源を活かした地域観光事業に取り組む一般社団法人エコティかわね。今回は町内の小学生と行った稲刈り体験をご紹介します。

獣害被害から米づくりを考える



稲刈りの様子



カヤネズミの巣の跡

毎年、町内の小学生向けに米づくりの体験を行っています。今年は三ツ星小学校・本川根小学校の5年生が体験しました。

6月に皆が植えた苗は順調に育ち、11月に稲刈りを行う予定でした。しかし10月末、田んぼに動物が入り、稲穂が約8割食べられたと連絡がありました。田んぼの活動は10年近く行っていますが初めての事です。現場に行くと、例年なら、ふさふさとした稲穂が辺り一面に広がっているところですが、スカスカの畑となりました。

先生方にも現状を伝え迎えた稲刈り当日。対策不足を子ども達に謝り、でも田んぼに残された足跡や、葉についている歯形を観察してもらうことにしました。足跡見本と見比べると、田んぼに入った動物は1種類ではないけれど、歯形でイノシシが食べたことがわかります。さらにカヤネズミの巣も残っていたため、そちらも観察しました。その後通常の稲刈り体験も行いました。米は少ししか取れませんでした。地名地区の他の場所で収穫したお米を後日、各学校に配り、食べてもらいました。子ども達からは、地名のお米の美味しさが分かった、お米を作る大変さが分かった等の感想がありました。

今回米が食べられたことは残念でしたが、これからも米づくりの体験を通し、自分でやってみることで、ありのまま伝え、共に考えることを続けていきたいです。



(一社)エコティかわね
川根本町桑野山424-6
☎0547 (58)7000
FAX0547 (58) 7001
Eメール: ecotkawane@gmail.com